「リバティーの監獄における状況」

「5 年半後の殉教で終わる〔ジョセフ・スミスの〕人生で，リバティーの監獄におけるあの残酷で違法かつ不当な監禁の時期ほど耐え難い時期はなかったと言えるでしょう。……

兄弟たちに出された食事は，粗末で，腐っていることもありました。あまりにも不潔だったので，『飢えをしのぐためにどうしても食べざるを得なくなるまでは口に入れられない』と語った兄弟もいました〔Alexander McRae, quoted in B. H. Roberts, *A Comprehensive History of the Church*, 1:521〕。さらには食事に毒を盛られたことが 4 度もあり，その結果，ひどく体調を崩し，何日もの間，死のうが生きようがどちらでも構わないと思うくらいの嘔吐，そして一種の精神錯乱状態を繰り返したこともありました。預言者ジョセフは手紙の中で，牢獄の様子について次のように語っています。『悪魔に取り囲まれた地獄……ここでは神聖を汚すののしりの言葉ばかりを聞かされ，冒瀆，泥酔，偽善，そしてあらゆるたぐいの背徳が繰り広げられる有様を見せられています。』〔in *The Joseph Smith Papers, Documents, Volume 6: February 1838 − August 1839*, ed. Mark Ashurst-McGee and others (2017), 361; spelling and punctuation standardized〕

……ジョセフはさらに自分たちがそこで被った『恐ろしい悪意を，ペンも舌も天使も』適切に描写することはできないと書いています〔Letter to Emma Smith, 4 April 1839, in *Personal Writings of Joseph Smith*, rev. ed., comp. Dean C. Jessee (2002), 463, 464; spelling and capitalization standardized〕。しかも，これらのすべては，ミズーリ州で最も寒かったとされる冬の期間中に起こったことなのです。」（ジェフリー・R・ホランド「リバティーの監獄の教訓」〔ブリガム・ヤング大学ファイヤサイド，2008 年 9 月 7 日，1 − 2，speeches.byu.edu）

「リバティーの監獄での 4 か月は囚人たちの肉体に……大きなダメージを与えました。鉄格子のはまった二つの小さな窓から太陽の光が差すことはほとんどなく，また，その窓は高すぎて外を見ることもできず，暗闇にいる時間が長いために目には大きな負担〔がかかりました。〕……小さな火の使用は許されていたものの，煙を外に出す煙突がないために，囚人たちの目はさらに刺激を受けました。耳は痛み，神経は安定を欠き，ハイラム・スミスはショック状態に陥ったことさえありました。……

後に残った囚人たちは，自分たちの家族を含めた末日聖徒の家族がミズーリ州全土から追われて散り散りになり，困窮している状況を考えるときに，いちばん失望を味わいました。」（ジャスティン・R・ブレイ「リバティーの監獄の中で」『啓示の背景』マシュー・マクブライドとジェームズ・ゴールドバーグ編，または history.lds.org）

- もし自分がリバティーの監獄に置かれていたなら，こうした状況により肉体的，情緒的，霊的にどのような影響を受けたと思いますか。